

平成 27 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

1 対 1 対 談 (尾鷲市) 会議録

1. 対談時間

平成 27 年 11 月 10 日 (火) 13 時 30 分～14 時 30 分

2. 対談場所

県立尾鷲高等学校 特別棟 2 階 総合演習室
(尾鷲市古戸野町 3-12)

3. 対談市町名

尾鷲市 (尾鷲市長 岩田 昭人)

4. 対談項目

- 1 高校生地域人材育成事業「尾鷲高校まちいく」について
- 2 第 1 次産業における従事者対策について
- 3 地方創生関連事業における県と市町の連携について
- 4 首都圏における情報発信について

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

皆さんこんにちは。本日は大変お忙しい中、岩田市長におかれましては 1 対 1 対談のお時間を確保していただきましてどうもありがとうございます。今日はこの尾鷲高校でやらせていただくということで、先ほどまた後に市長からもご説明いただくのかもしれませんが、本当に地元にも密着する形で県立高校が、活躍の場を与えていただいておりますので改めて感謝を申し上げたいと思います。

それから話は全然変わりますけれども、先日第 30 回の全国尾鷲節コンクールに私も飛び入りで参加をさせていただいて、全国各地からこの尾鷲節を愛し、来ていただいている皆さんに非常に頭の下がる思いでありましたし、これほどまでに多くの皆さんが尾鷲節を愛していただいているんだというようなことで、改めてうれしく思った次第であります。開催にご尽力いただきました尾鷲市さんをはじめ、実行委員会の皆さんに改めて感謝を申し上げたいと思います。

それから、現在は地方創生という形で色々ある中で、尾鷲市さんでも特色ある取組を進めていただいていると聞いております。まず食に関して昨年度計画を作っていたということで聞いておりますけれども、三重県も食の産業振興というのをひとつの大きな柱にしておりますので、ぜひ連携して取り組んでいければと思っているところであります。また、このふるさと納税も好調に推移をしていると聞いておりますし、単純に

納税してもらって、あるいは返礼とかして終わり、というのではなくて、実際に尾鷲に来ていただいてという取組まで踏み込んだ形でやっていただいていると聞いてもおりますので、そういう取組が今後功を奏していくように、共に連携していければと思います。併せまして、現在三重県全体でも積極的に活用されております、地域おこし協力隊の皆さんも、それぞれ地域でお仕事を作っていただいたりして活躍をしていただいていると聞いています。そういう地域おこし協力隊の皆さんの力も借りて地方創生をしっかり成し遂げていきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願ひしたいと思ひます。冒頭、私からは以上です。よろしくお願ひします。

尾鷲市長

まずは、先日大変お忙しい中、尾鷲節コンクールにお出かけいただき本当にありがとうございました。併せて、サミット特別賞の真珠を提供していただきまして、重ねてお礼を申し上げたいと思ひます。いよいよ伊勢志摩サミットが200日を切りまして、これは伊勢志摩地域だけではなく、私たちもこぞって参画をさせていただきたいと思ひしておりますので、どうぞよろしくお願ひします。本日はこのような機会を作っていただきまして、本当にありがとうございました。

さて、本市でも尾鷲市版の総合戦略を策定したところであります。その総合戦略の基本目標の中で、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえることとして、その取組の中のひとつとして、子育てしたい、子育てしやすいまちづくりを掲げております。昨年3月には内閣府と共催して少子化危機突破フォーラムを開催させていただきまして、その際にはイクボス宣言をされた鈴木知事にもパネラーとしてご出席いただいたところでもあります。また、昨年より併せて尾鷲子育てまちづくり座談会というのを開催して、子育て現場からの生の声を聞かせていただいております。その中で、おせっかいというのが尾鷲の魅力のひとつではないかというような案が出まして、それで地域の子育て世代とか移住者を見守る、尾鷲おせっかい隊というのを作ろうじゃないかというふうにして今取り組んでいるところであります。そうしたところ、東京に一般社団法人のおせっかい協会というのがございます。その創始者の高橋恵さんという方と、本当に不思議な縁で結ばれまして、早速高橋さんに来ていただいて幸せなおせっかいのススメという講演会を開催させていただいたところであります。高橋さんにつきましては、尾鷲のおせっかい隊を全面的にバックアップさせてもらうというようなことであります。今私が着ているこのTシャツはそのおせっかい協会のTシャツであります。イクボスである知事もぜひこの取組にご賛同いただきたいということで、ぜひプレゼントをさせていただきたいと思ひます。

(市長→知事へTシャツプレゼント)

本日の対談は尾鷲高校でやらせていただくので、この尾鷲高校との連携の話、あるいは地方創生が中心になっていくと思ひますが、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

先ほどご紹介させていただきましたけれども、このような形ですでに様々なコラボレーションをやらせていただいているところでありますので、これからもよろしくお願いいたします。

(2) 対 談

1 高校生地域人材育成事業「尾鷲高校まちいく」について

尾鷲市長

それでは、対談項目の1つ目です。高校生地域人材育成事業の「尾鷲高校まちいく」について。「まちいく」というのは、町が育ててくれる、町を育てていくという思いから付いた名前です。よろしくお願いいたします。

尾鷲市では昭和35年をピークにしまして、人口の減少に歯止めがかかっておりません。人口減少対策は急務ですが、利便性や快適性、経済的価値を向上させることと併せて、尾鷲の豊かな自然・歴史・文化等、ふるさと尾鷲にあるものの価値に目を向けて、地域の活性化につなげていくことが大変重要であると考えているところであります。

現在、当地域唯一の高等学校である尾鷲高校では、卒業生のほとんどの方が就職であったり、大学進学であったりで、尾鷲を離れている状況です。「尾鷲には何もない」、「地元には仕事が無いから帰れない」という従来の若者の意識から、「地域を元気にする新たな仕事を作り尾鷲に住み続けたい」、「一度は地域を離れても、また地域に戻り様々な体験とか経験を通して学んだことを生かして地域の活性化や再生に取り組み社会に貢献したい」といった若者をぜひ増やしていきたいということから、平成26年度より、三重県南部地域活性化基金を活用させていただきまして、高校生地域人材育成事業に取り組んでいるところであります。本事業は、尾鷲高校の生徒の皆さんに対して、「自分が地域のために何かしたい」、「できることがある」と感じることでできる実践的な人材育成プログラムで、高校生が地域に出向いて地域の課題を調査し、その解決策を考えることで「自分たちの地域は自分たちの手で作り出そう」という当事者意識の醸成を図るものであります。昨年、この取組に参加した高校生からは、「高校生でも地域のために課題の解決策を考えられることが分かり自信になった」、「いつもは発言しないがまちいくではたくさん発言ができた」等の自己成長や「地元の魅力に気づいた」、「地域の行事に参加して、地域で頑張っている人の姿を見ることができた」等の地域への関心の高まりや「仲間の意見から学ぶことができた」、「皆でひとつの事を一緒に考え、協力し合うことの大切さを知った」等の、仲間とのきずなという今後次代を担う人材に必要な重要な要素である意見が多く寄せられました。今年度におきましては、本市の他に紀北町さんにも参加していただき、県、三重大学と連携し、尾鷲高校まちいくを今進めていると

ころであります、人づくりについては大変息の長い取組であります。県においても継続的なご支援をお願いしたいと思っております。

また、この取組を継続的に進めていくためには、教育現場における理解が大変重要であります。尾鷲市、ひいては三重県が、地域の未来を担う人材を継続して育成していくためにも、教育現場における理解がさらに進むようご協力、よろしく申し上げます。また、この尾鷲高校まちいくの取組と相乗的な効果を発揮するような三重県の取組もご検討いただきますようお願いをしまして、1つ目の対談項目の説明を終わらせていただきます。

知 事

はい、ありがとうございます。尾鷲高校のまちいくの関係、こういうものの継続的な支援ということで市長からお話いただきました。市長からご紹介いただきましたとおり、南部地域活性化基金というのを活用してこの尾鷲高校の取組には26年度・27年度と続けてご支援をさせていただいております。そういう意味では、私たちもこういう取組は短期間で成果がドーンと出るようなものでもないですし、地道に続けていくことで、徐々に地域に関心を持っていく生徒が増えたり、あるいは地域外へ進学した学生が地元に戻ってきたり、あるいは地域の皆さんも高校生とともに地域をよくしていこうという理解が進んだりというようなことであると思っておりますので、我々も来年度以降も出来る限りこのような市町の取組への支援というのは続けていきたいと思っております。

それから教育現場での理解の促進ということで、市長からお話がありました。今市長からもご説明いただいたとおり、我々高校教育関係の教育委員会事務局のメンバーも、この尾鷲のまちいくの取組というのは本当に地域の素晴らしさを再発見、再確認できる学習活動として、大変重要な取組であると思っております。特に、先ほど市長からもご紹介いただきましたけれども、行政の尾鷲市だけではなくて商工会議所、あるいは三重大学、こういうところとも連携してやるというのは高校生ではなかなか得難い経験であると思っておりますので、教育現場、ともすれば自分たちがやらなければならないこと以外にもこういう事業が出てくると多忙を極めているので大変だというようなことが、万が一高校の中にあってはなりませんので、円滑に運営できるように我々もしっかり教育委員会事務局を通じて働きかけをしたいと思っております。確かに教員の人たちは多忙でしょう、忙しいと思っております。でも結果として何が一番大事なことなのかというのは、教育は学ぶ人のためにあるものでありますので、そういう意味では、このまちいくにおいて、高校生たちが成長し、そして多くの経験を得ているというのであるとするならば、それは高校教員あるいは教育現場だけで出来ない事である訳ですから、それは積極的に本取組に対して、理解を示し、しっかりとご協力をさせていただくということがあってしかるべきだと思っております。また普段の県庁の例えば雇用経済部のメンバーとかだと、商工会議所の皆さんや地元の中小企業の皆さん、あるいは食関係の加工業者の皆さんと

か、あるいは大学の皆さんとお付き合いすることも多いと思いますけれども、教育委員会事務局とか教育現場の皆さんはなかなかそういうのに慣れていない人もいるかもしれません。それでも高校の役割というのを考えていけばそういう時代ではありませんので、そういうことも含めて教育現場での理解の促進がしっかり進むように、その尾鷲高校が地域で期待していただいているこのような取組に円滑に参画できるように、しっかり継続して支援をしていきたいと思えます。

それから市長がおっしゃっていただいたように、この取組が相乗効果を発揮していくというようなことが大事であると思っています。県の方ではこういう集落支援に関わる学生とか地域おこし協力隊とか、地域づくりに関わる人々の発表の場を設けて、スキルアップとかネットワークづくりを図ることを目的として、平成27年3月に「地域づくりイキイキフォーラム」というのを開催しました。ここには尾鷲高校の生徒の皆さんにも参加をして取組を発表していただきました。そこでは主なコメントで、「将来は中学校の教諭になって尾鷲に帰ってきたい」というふうなことを言ってくれた高校生もいますし、「尾鷲を活性化できるように積極的に行動を起こしたい」と言ってくれた高校生もいましたし、来場者の方で「大学生が地域に入る活動は多いが、高校生でもできるんだということは大きな発見だった」というふうにおっしゃっていただきました。こういうような、実際に取組に参加している高校生も非常にインスパイアされるものであるし、来場者の皆さんにも気づきを与えることができる素晴らしい取組だと思います。今年度もこのフォーラム開催を予定しておりまして、尾鷲高校だけじゃなくて、これまで支援してきました昴学園高校や南伊勢高校南勢校舎の取組も発表をお願いしているところでありますので、こういう情報交換とか意見交換の場を通じてそれぞれの取組が充実したり、あるいはネットワークづくり等を支援していけるようにやっていきたいと思えます。

また、この尾鷲では今年度のまちいくでは「網干場（あばば）」の取組など、地域おこし協力隊の皆さんがやっていただいたものとの連携というんですか、行政において部署を超えて横串で違う事業と違う事業を連携させてひっつけて橋渡ししてやるというのは結構苦手な部分があるんですけども、その部分についてはうまく結び付けて橋渡しをしていただいているなと思っています。南部地域活性化基金だけでも色々な事業がありますし、様々な事業が橋渡しされるよう、しっかりつながって相乗効果が上がっていくよう、それぞれの事業についてももしっかり関心を高めて横のつながりができるようしっかり県としてもそういう目で、地元の地域活性化局も含めて見ていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

尾鷲市長

ありがとうございます。幸い尾鷲高校では土井校長さんをはじめ、職員の皆さんが全面的にバックアップしていただきまして、このまちいくだけではなしに、男女共同参画セ

ミナーも尾鷲高校でやらせていただいて、若い時にジェンダーというのを認識してもらおうということをやらせていただいております。それと集落で、今知事におっしゃっていただきましたような色々な地域おこし協力隊を中心とした活性化が進んでおりますので、この辺りと随分連携していく必要があるのかなというふうに思っております。そういった中でこの11月27日に紀北地域活性化局の若手の職員のワーキンググループ紀北はまち座があるんですが、ここがもうひとつレベルアップしていただいて、市町の若手職員、商工会議所の若手職員と尾鷲高校の生徒さんの交流会を開催していただけるといようなことで、様々な動きが今出てきておりますので、大変私もうれしく思っているところであります。これからもよろしくお願いします。

知 事

ありがとうございます。後、今回26年度・27年度はそこの中には入っていませんでしたけれども、正に冒頭市長がおっしゃっていただいたこの子育てに力を入れていこうというようなことについて、県の少子化対策においては高校生も含めてライフプラン教育というのをやっています。つまり結婚をしたいときに結婚ができる、子育てがしたいところで子育てできる、なんですけれども、実際にはたとえば女性にも男性にも医学的に様々な適切な年齢等があったりする、でもそれを知らないというようなこともあったりするので、自分たちのライフプランをよくなるべく早い時期から考えてもらおうというような取組もやらせていただいておりますので、それは国の少子化対策交付金も使えますし、それと被らない事業であれば県独自で市町の独自の取組を応援する少子化の市町応援交付金というのもありますので、こういうのも活用していただいて先ほどのおせっかいもそうですけれども、結婚とか妊娠とか出産とか子育てに関わることを高校生のメンバー等が考えていただくような、そんな今尾鷲で力を入れていただいている授業との連携みたいなのを図っていただくとよりいいのかなと思います。これは個人的にそう思いました。

後、先ほど男女共同参画ということも言うていただきまして、大変重要なことであると思っておりますが、加えて来年度になるかと思っておりますけれども、県としては男女共同参画の第二次計画の改定の中で、LGBTの今世間でも色々話題になっておりますけれども、そのことについても書き込んで、あるいは人権の教育の中でそういう部分についてもしっかりと学んでいこうということもしておりますので、またそういう男女共同参画の場面で、これはもちろん教育現場においてしっかりやる部分もありますけれども、そういうことも皆で考えるような多様性が受け入れられる町になっていくといいのかなと思います。

また、先ほどの県職員の部分については、ぜひどんどん巻き込んでいただいて、県職員とかだとなかなか普段高校生の皆さんと接してなくて素朴な疑問とかをぶつけられることも無いかもしれないので、「何でそんなことやっているの」とか「これは何でこうなんですか」とか素朴な疑問等をぶつけていただいて、高校生の人たちが一方的に

勉強する場ではなくて、私たち県職員も勉強させていただく場と捉えて、しっかり両方が気づきを得られる、そんな機会になればなと思うところであります。いずれにしましても、私どもが先般実施しました高校2年生と保護者へのアンケートの中で、80%ぐらいが、一回出たりしても、「最終的には自分たちの今住んでいる地域で住みたい」というふうに言っているんですけど、じゃあ何でそう考えるんですかと聞いたら「理由は無いけど愛着がある」というのがひとつの一番大きな理由でした。こういう地域が協力し、地域に愛着を持てるような取組をしていただくというのは大変ありがたいことですので、我々も積極的に取り組んでいきたいと思うところであります。以上です。

尾鷲市長

こういった取組は、本当に長い期間の取組が必要でありますので、我々も長期的に進めていきたいなと思っております。

2 第1次産業における従事者対策について

尾鷲市長

はい、2つ目の第1次産業における従事者対策についてであります。第1次産業につきましては、本市におきましては従事者の数としては本当に少ないんですが、しかしそれでも一番重要な産業であるという認識の下、基幹産業だということで6次産業化への取組や農商工連携等を進めてきております。地域振興において、大変重要な産業であると思っております。この10月末に策定しました「尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略」でも、第1次産業分野における高齢化対策を重要な取組として掲げております。その施策の効果的な推進をぜひ進めていかなければならないと思っております。この本市の第1次産業の従事者は尾鷲市人口ビジョンでの分析の結果、平成22年度の時点で2人に1人が60歳以上となっております。今後も60歳以上の割合が上昇していくものと推測をしているところでございます。その中で、後継者・従事者の確保は地区の過疎化と相まって、関連産業の維持、発展にかかる重要な課題となっております。

本市には多種多様な水産資源、それからヒノキ、スギ等の森林資源が豊富に存在しておりますが、この重要な資源を水産業と林業をどんどん進めていかなければならない、そういう学習する環境も併せて進めていかなければならないと考えております。そこで、3点について知事のお考えを聞かせていただきたいと思っております。

まず1点目が林業大学の誘致についてです。知事の政策集の中に林業大学の創設が記載されており、県内高等教育の魅力向上や第1次産業への若者の人口の定着への取組として本市への県立林業大学の誘致の可能性について、1点お伺いしたいと思いま

す。

次に地域資源を活用した専門学科の誘致についてです。同じく知事の政策集に地域密着型の専門学科の設置が記載されており、三重県立尾鷲高等学校における地域密着型の、例えば食とか水産とかの関連の1次産業に関連した先端技術を学べるような専門学科の設置の可能性についてもお伺いしたいと思います。

最後にこれは学校等そういったものではありませんが、水産業における担い手対策についてであります。本市では漁業への就業意欲のある若者を対象とした3泊4日の漁業体験教室、それから6ヶ月の長期研修制度による就業支援を行ってまいりましたが、体験メニューの充実を要望される体験者の声が大きくて、新たに平成24年度から尾鷲漁業協同組合が早田漁師塾を開校しております。早田漁師塾は三重県の漁師育成機関モデル構築事業の雇用就業形態モデルに選定されておりました、県および漁連等の関係機関の支援を受けて発足し、若者の水産業への就業・就労の促進や漁協等が取り組む人材育成、就業支援を行う新たな仕組みづくり・拠点づくりを推進するためにモデル事業にかかる必要経費の一部を平成24年度から2ヶ年にかけて支援をいただいたところであります。今後、事業の継続や拡充を図るに当たり、県政における県費補助金の弾力的な対応についても検討をお願いしたいと思います。

これらの取組が実現することによって、第1次産業従事者の確保や人口減少への対策が図れるとともに、地域の活性化も含めて様々な波及効果が期待できるものと考えております。本市の人口減少対策に資する取組として、ご検討いただきますようお願いいたします。

なお、早田漁師塾については今年度も引き続きやらせていただいているところであります。

知 事

はい、ありがとうございます。3点のお話をいただきました。

まず1点目は林業大関係です。これは議会等ではよく私も答弁させていただいているんですが、初めてお聞きいただく方もいらっしゃるので改めて申し上げますけれども、まずそもそも三重県の森林は育てて50年となった木が大体55%を占めるというような状況なんで、正にこれからかき入れ時というかここで素材生産量を伸ばさないと先代や先々代が一生懸命、緑の循環で植えて育ててくれたこの木がもったいないことになってしまうわけなんですよね。後さらに木というのは使ってまた植えて育ててという循環がないと、ここで使わないと我々の次の世代・その次の世代にこの森林とか林業というのをつないでいくことが出来ないということで、非常に勝負時だという、林業について認識を私は持っています。そういうのもあって、例えば平成26年度、これは災害等も中心でしたけれども、三重森と緑の県民税という税の負担を県民の皆さんにお願いをするということについても決断をさせていただきました。また、今回2期目に出

るにあたって、この林業大学校の話もさせていただきました。さらに、この20年ぐらいで三重県の林業は、もちろん林業従事者は減っていったんですけども、一方でその年齢構成が40歳未満が10数%、20%近く増えてきたというような形で、全体のパイは減っているものの、若い従事者の構成比率というのは高まっているので、その方々にしっかり頑張ってもらうための人材育成が必要だという思いがあります。そういうような形で林業は今ここが勝負時と、三重県の林業の勝負時と、そういうような思いです。併せて今、地方創生や人口減少ということが出てきています。林業がある地域は、正に林業が働く場として大変重要な役割を担っていて、そのリーダー的な存在というのが正にその中山間地域のリーダーにそのままなっていくわけでありますから、地域のリーダーを育てるという観点からも大変重要だというふうに思っています。この林業大学校の設置について積極的に検討していこうという思いに至ったところであります。今、色々なニーズ調査等もやらせていただいています。併せて私自身も長野県の林業大学校を見せていただいて、非常に40名ぐらいの全寮制の、木曾町にありましたけれども、非常に中身も先進的な、オーストリアの、世界の中でもオーストリアというのは林業に非常に先進的な場なんですけれども、その実地研修等も含めたレベルの高い林業もやっておられましたし、それぞれの地域に対する思いも強かった。そういう先進地の調査も私も職員もやらせていただいております。ですので、どういうターゲット、新卒の子を育てるような大学校がいいのか、長野はちなみにそうだったんですけども、あるいはもうすでに森林組合等で働いていて、その人たちの経営力を増しさらにリーダー化してもらうための人材をターゲットにするようなものがあるのか、そういうことも含めて今議論をさせていただいているところであります。一方で、いざ学校の設置となったら、既存のものに何か入れていくということであればアレですけども、いずれにしても何らかの形で学ぶ場の校舎が必要ですし、何らかの形で実習林の確保ということが必要になってくよと思っております。そういうことでは、県財政も大変厳しい状況ですから、そこに対してなるべく低いコストでやっていきたいと思っておりますので、そういう意味では市町の皆さんから様々なご協力もいただきたいと思っておりますし、様々な提案をいただければと思っておりますので、なにとぞよろしくお願いをしたいと思っております。

それから2番目の地域資源を活用した専門学科の誘致でありますけれども、これも議会では結構いくつか答弁させていただいてきたんですけども、改めて申し上げますと、北勢地域は工業高校の専攻科という形で、今回学校教育法が変わりましたので、高校の専攻科を卒業すると短大卒業資格が得られるというようなことや、大学への編入が出来るような制度になりましたので、北勢地域においては工業高校の専攻科、これを進めていきたいと考えておりますけれども、じゃあ南部地域においてはどうしていけばいいのか、南部地域の産業、南部地域や県南部の中山間地域のそういう産業の特性に合わせたそういう学ぶ場が必要なのではないかと。今三重県の地方創生の総合戦略も、学ぶ場・働く場・暮らす場というふうに分けています。特に学ぶ場、大学において定員が三重県

は少なく、いわゆる大学収容力というのが全国 46 位とか 45 位という状況なので、大学の 신설とか再編とかなかなか難しい部分もあるけれど、その研究もやっていきますけれども、じゃあまず私たち県ができるのは高校の部分が出来るはずじゃないかというようなことで、その地域のそれぞれの産業特性に合わせて北は物づくり、南部の方は 1 次産業というようなことで考えて、政策集に書かせていただきました。実は教育委員会事務局の皆さん等も含めてまだまだ教育が地方創生のために超重要であると。教育無くして地方創生無しということの意識改革をまだちょっと図らないといけませんので、従来の教育課程とか、従来の文部科学省を中心とした教育体系の中でしか物事が理解できていない方々がちょっと多いので、これから意識変革のための取組をしなければならないのと、後もうひとつ実は大事なことは、やはり保護者の皆さんとか地域の産業の皆さんのニーズをしっかりと捉えた中身じゃないと意味が無いと思っていますので、そういうニーズを捉えるということもやらせていただきたいと思っています。併せて、どう考えても中学校卒業者の人口が減少するので、既存の学科を保持したまま新しい学科の設置というのは、これはやはり難しいです。どこかを削る可能性があります。それでもいいのかということについて、地域の皆さんと議論する必要があります。トータルとして定員は減らないかもしれないけれども、こっちの学科にあった定員を新たな専門学科に回すというようなこともありうるかもしれないし、でもそれは何らかの形でこっちを保持しても新しい専門学科を作っても、こういう形でやればこういうふうな募集をやったりこういうようなコンテンツだったら大丈夫だ、と地域の皆さんに応援していただくようなことも逆に大事かもしれないので、それは色々なパターンがあると思います。でも、中学校卒業者の人口が県内において減少するというのは事実ですから、それも踏まえたシミュレーションでいい中身のものにしなければならないと思っていますが、いずれにしても今申し上げましたとおり、私は教育の改善というのは、教育の充実無くして地方創生無しだと思っていますので、ぜひこういうことについては、地域の皆さんのご提案も踏まえて、積極的に考えていきたいと思っています。

ちょっとあまり長くなってしまってます。水産業ですけれども、県内には早田漁師塾をはじめ 3 つの漁師塾が活動してまして、15 名の若者が漁師塾を修了して内 9 名が地元漁業に就業しました。現在も 10 人が研修を継続中です。この漁師塾の運営に協力していきたいと思っておりますし、3 つ別々に行われてきた漁師塾も 1 回 3 つまとまってネットワークとかあるいはカリキュラムの充実とかもやっていきたいと思っていますし、国の制度も活用しながら、県費の部分についても引き続き厳しい財政状況ですけれども、独自の補助もしっかりやっていきたいと思っています。実は今、来年度からスタートするみえ県民力ビジョンの第 2 次行動計画（仮称）というものを、議論していますが、新規漁業就業者数も当然目標にしながら、後どういうふうにも新規漁業就業者を確保していくのかというのを、より精緻に分析しながら今現在検討しているところです。例えば、高知とか宮城とか、漁業の水揚げ高等が似ていたり魚種が似ていたりするところ

があったりするものだけではなくて、養殖の割合と他の漁業の割合等が似ているような、例えば、実はその割合というのは長崎県と三重県で実はよく似ているので、そういうところの取組なんかも参考にしたりとかすることで、いずれにしても新たな担い手の確保のために、これまで以上にしっかりと知恵を絞って取組をやっていきたいと思っております。ちょっと長くなりましたけれども以上です。

尾鷲市長

はい、ありがとうございます。林業のことで言えば、尾鷲市は50年生の山が600haぐらいあるんです。実習林としては十分提供できますので、お考えいただきたいと思っております。それから、専門学科の誘致については確かに今までのアレをなくしてというようなことは当然考えていかなければならないと思っておりますので、我々も地域でのそういう議論を進めていきたいなと思っております。それから、水産業における担い手対策につきましては、私どもの早田漁師塾でも、8名受けていただいて、3名早田で働いていただいておりますし、今年の部分で4名受講していただいております。これは1ヶ月でするので、もうちょっと充実することによって担い手としての応募をたくさんしていただけるんじゃないかなということでもありますので、さらなるレベルアップを考える、専門学科も大切ですがけれども、しかしこういった担い手を育成するためのプランをもうちょっと充実していく必要があるんじゃないかなと思っておりますので、これについても引き続き議論をお願いしたいと思います。

知事

ありがとうございます。ひとつ言い忘れてましたけれども、サミットの関係では県産材の活用について、今林業の話がありましたので、ご提案いただきましてありがとうございます。国にも提案をし、何とか4.4mの、首脳が議論する丸いテーブルは県産材が活用されるようにしていきたいと思っておりますし、一昨日ですか、200日スタートの時も全てのカウントダウンボードではありませんけれども、私がオープンでやったところのカウントダウンボードは県産材のヒノキを使わせていただいてやらせていただきましたので、もちろん利活用の部分も林業の振興というのもしっかりと頑張っていくと思います。これはちょっとお礼だけ言っておこうと思ひまして、以上です。

3 地方創生関連事業における県と市町の連携について

尾鷲市長

じゃあ項目の3つ目であります。地方創生関連事業における県と市町の連携についてということでもありますけれども、「まち・ひと・しごと創生法」が26年の11月に制定されまして、国、全都道府県それから全市町村に、人口ビジョンそれから総合戦略の策

定が求められているところでもあります。県におかれましても「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定されましたし、本市においても本年10月末に策定を完了したところでもあります。県と市町が歩調を合わせて人口減少社会とか超高齢社会への対策に向けて取り組んでいくことが、より効果的かつ効率的な方法であることと認識しております。

28年度の国の地方創生関連概算要望におきまして、地方創生の深化のための新型交付金として1080億円の予算規模が示されておりますけれども、本年度取り組んでいる先行型の交付金との大きな違いとして、交付金の充当率が国予算要求の段階ではありますけれども10/10から5/10に変更されることが予定されております。

本市戦略においては、県の戦略の動向も勘案させていただいて、策定作業を進めさせていただいたところでもありますけれども、交付金単独では予算的に事業の組み立てが困難となることが予測されているところでもあります。つきましては、目的や方向性を同じくする市町の地方創生関連事業に既成の補助メニューの活用や補助金の新設等、財政的な支援をお願いします。

と言いますのは、先行型交付金では国の補助メニューに対しては、交付金の充当は不可能でしたけれど、県単独の補助事業への交付金の充当は可能であるという内閣府の回答があったんですね。ところが一部の県費の補助金の要綱では、他の交付金・補助メニューが該当するものは対象外であると、いうふうになっておりますので、県単独補助事業に交付金の活用ができるように一度お考えをいただきたいということです。

知 事

はい、ありがとうございます。国の新型交付金につきましては、先ほどおっしゃっていただいたとおりで現在制度設計が進められていて、我々も、全国知事会も地方負担はやめてよねと。最近そういう傾向にあるんですよ。国の少子化対策の交付金も10/10だったやつに1/10か2/10かだったと思いますけれども、地方負担を求めていくという動きも出てきましたし、後は海岸漂着物の関係の環境の保全の交付金なんかも元々10/10でしたけれども、1/10とか2/10とかそういうのを地方費負担を押し付けてくるというようなこともありました。なので、ひとつのパイを地方負担を入れて薄く広く他の地域にばらまくというようなことにするのであれば、結果としてあまり今までと変わらない地方創生なんじゃないかと思ってしまう訳ですよ。なので、私たちとしまして、これから今月の末に全閣僚と総理を含めた全国知事会もありますので、そこでおそらく山田会長が申し上げると思いますけれども、今後国に対しての働きかけ、しっかり地方の意見を十分踏まえてほしいということについては我々も申し上げていきたいというふうに思っております。地方創生の交付金自体に県の補助金とか他の補助金を充てられるかどうかということについては、ちょっと研究していきたいと思いますが、そのまま地方創生に挙げていただいた事業にその事業を充てるという形にするのか、既

存のメニューをうまく組み合わせ頂くのか、ちょっとそこは個別の事業も見ながら具体的にご相談をさせていただければというふうに思っておりますので、いずれも限られた財源ですし、我々も市町に使っていただくような補助金をやるのであれば有効に使っていただいた方がいいに決まっていますので、そこはどのようなふうに組み合わせるのがいいのかどうかという等もありますから、具体的にまた個別にご相談をさせていただければと思います。

尾鷲市長

お互いの目的が同じであれば、補助金と交付金を使うことによってさらに効果が上がる場合があるかと想定されますので、一度ご検討をお願いしたいと思います。

知 事

そうですね、なので5/10になったので、その5/10を補てんすることを目的とした新たな交付金制度というのを県単独で作るというのは、これ選択肢としてないですけども、事業を有効に回すためにうちの県の既存のメニュー等色々ご議論いただくというのは、それはもう組み合わせさせていただいた方がいいと思うので、そういう観点でぜひ有効に活用できるよう個別に議論させていただきたいと思います。

4 首都圏における情報発信について

尾鷲市長

はい、最後の項目になります、首都圏における情報発信についてであります。尾鷲市の総合戦略においても、特産品等の販路拡大、観光誘客や移住定住の促進を図ることとしておりまして、都市部での情報発信について、その重要性を再認識しているところでありまして、積極的にやらなければならないと思っているところでもあります。そのような中、県の関西事務所におきましては、大阪を中心とした関西圏域での本市の情報発信につきまして、各種メディアへの対応や情報発信等、積極的にご協力いただいております感謝を申し上げたいと思います。

また、首都圏域におきましては、2013年9月に三重の魅力を発信する首都圏営業拠点三重テラスがオープンし、本年7月には早々と来店者100万人を達成した順調な滑り出しとのことと伺っているところであります。本市におきましても、首都圏における情報発信の場や機会がなかなか少なく、三重テラスの存在は大変貴重なものとなっております。物販コーナーとかレストラン・カフェにおいて本市の特産品や食材も多数取り扱っていただいております。販路開拓や情報発信の場としても大変ありがたい存在となっております。今後も引き続き本市特産品の拡充および観光・定住・移住に関する情報発

信へご協力賜りますようよろしくお願いします。

そこで今後、首都圏域での情報発信を進めるにあたり、2点のお願いがあります。まず、三重テラスの2階多目的ホールについては、情報発信イベントスペースとして本市でも数回活用させていただいておりますけれども、催事を行うにあたり多目的ホールが2階にあるため、イベント集客で大変難しいというような課題があるのではないかと考えております。案内板の設置とか情報スペースの確保、誘客ツール等の工夫についてご検討をお願いできないかなと考えております。加えて、波及効果が大変大きい首都圏における各種メディアへの対応、そういったものの情報発信等についてさらに積極的に進めていただきますよう、併せてよろしくお願いします。

知 事

ありがとうございます。今日も三重テラスで東京尾鷲会を今晚やっていただけるということでありがとうございます。積極にご活用いただくということで、我々もありがたく思うところであります。

2点ありました。1つは集客の色々な融通をとということだと思しますので、それは実際にデジタルサイネージ、入口のところにデジタルサイネージあるんですけども、それを活用して案内板みたいな形にしたケースもありますし、ショップのところにテーブルみたいなのを置いて分かりやすくしてもらうような形のものもやったりしましたし、ですのでいくつかそういう経験ノウハウの蓄積がありますので、ぜひご相談いただきましたらそういう提供をしていきたいと思えます。結構、意外と超アナログで効果があるのは、実は、その日にゆるキャラとかちょっと格好した人が目の前でちらし配るのが、僕らもバカにできないぐらいまあまあ効果があって、例えば海女の格好をしている人等が配ったりすると、そのまま入ってくれたりするんですよね。後そういうのと、プラスやはりイベントまでの、事前の準備というのが結構、こういうイベントやりますよ、例えば日本橋地域の色々なフリーペーパー等に三重テラスの情報を載せていただいたり、地域のコミュニティラジオでやっていただいたりするケースが結構多いので、そこへなるべく早めに載せておいて、情報発信を地域の皆さんにしてもらうとかというのがありますので、事前の集客対策というのも併せてやっていただく、そういうノウハウ、うちも経験貯めてきていますので、「今度いついつこういうふうにするのでどういうふうにやりましょうか」と言ってもらったら、また色々なノウハウの提供もできると思えますので、ぜひご活用いただければと思えますし、首都圏メディアとの関係づくりにおいても、そういうふうな形でやっていきたいと思えます。私も早速明日、サミットの事が中心ですけども、日本記者クラブで記者会見をしてまいろうというふうに思っておりますので、最近色々な形でサミットの効果もあって、三重県のことを取り上げていただくケースが多いので、今日も何故かプレジデントという雑誌の今回資料作りのテーマなんですけれども、なぜか僕が資料作りについて説明をしているという、そこで三重県の魅

力をPRしているんですけれども、そういうような色々なメディアとの関係もござい
ますので、ぜひ我々も地道に新聞や、東京事務所や三重テラスは実はかなり地道に新聞社
とか来場者への営業へ行って、こんなイベント有るのでよろしくお願ひしますとやらせ
ていただいて、効果が上がっているものと上がっていないものとありますけれども、そ
ういうのもやっていますので、ぜひご活用いただければなというふうに思うところであ
ります。後ちようど直接ではありませんけれども、移住相談センターに今行っている職
員はこの紀北地域活性化局で尾鷲の皆さんに大変お世話になったメンバーですので、
「お前、尾鷲のPRしてこいよ」と言っていただけでも全然かまいませんので、尾鷲だ
けになるとアレかもしれませんけど、せつかくそういう東京にいる資源を全体的に連携
して有効に活用するという視点は重要であると思っていますから、また色々なそんなご
活用を頂ければと思いますので、それに応じて私たちもご相談に乗って進めていきたく
と思います。

尾鷲市長

三重テラスにつきましては6月12日に枝元なほみさんという料理研究家の方に「お
わせ魚バル」というのをやっていたきまして、本当に好評でしたので、こういったイ
ベントもどんどんやらせていただきたいなと思っております。また色々と相談させてい
ただきながら進めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

知 事

ありがとうございます。本当に全体で2年経って120万人ぐらい現在来ていただい
ているんですけれども、特にサミット決定後、今年度になってから来館者数が歴代1位と
か2位とか3位とか4位とか5位とかそういうのが結構増えてきていますし、売り上げ
もこの9月は過去最高になりましたので、たくさんお客さん来ていただいておりますの
で、うまくご活用いただければと思います。今の魚バルみたいな感じで、色々イベント
やっていますけれども、僕が側聞しているところでは集客力高いのはやはり魚、それか
ら日本酒、これの系列のイベントは人がよく来ますね。後は今回夏休み成功したのは子
供向け。トミカ、プラレールのやつとニンニンジャーのイベントをやりましたけれども、
これはとても人来ましたね。そういうような形でどういふのが結構人来ますみたいな
もうちの営業本部がデータとして蓄積していますので、また尾鷲市のそういうPR担当
の方と、ゆっくりお話していただくと、多分そういうふうによればいいのか、他の地
域はこんなのかやっているのかみたいな、後どういふタイミングで出来るか分かりませ
んけれども、うちの営業本部のメンバーが市町の皆さんに、個別には結構回らせて、う
ちの総括本部員が市長のところとか副市長のところを回らせていただくんですけれど
も、もうちょっと担当レベルでより効果を上げるような三重テラスの活用方法等も皆
さんに、この2年間やってみての経験なんかを伝授させていただくというかお伝えさせてい

ただくような機会も作っていただければなと思っています。

(3) 閉会あいさつ

知 事

岩田市長ありがとうございました。また、傍聴の皆さんもありがとうございました。触れていただけていませんでしたけれども、マイク置いてあるやつ、尾鷲節のこの手拭いが置いてありました。ぜひ、今おっしゃっていただいた課題は学ぶ場、あるいは地域の主要産業の働く場や担い手の確保というようなことで、この地方創生のおり、大変重要な課題であったと思います。県としましても、様々なリソースを活用しまして、財源等は限られている部分はありますけれども、ぜひ有効な取組として前に進むように連携して取り組ませていただきたいと思いますので、何卒よろしくお願ひしたいと思います。

また、この県立高校が冒頭も言いましたけれども、地域でこういうお世話になっていくということは、この生徒の皆にとっては本当に得難い経験だと思いますし、そういう高校生の時に、地域のことを考えるという経験があるか無いかというのはきっとその後の自分が住む地域を選択するときに、大きな差が表れてくるんじゃないかと思っていますので、県立高校でございますけれども、引き続き地域の皆さんにご活用いただきお世話いただきご協力いただくことをお願ひをしまして、私のあいさつとしたいと思ひます。今日はどうもありがとうございました。